

## 1 千人町と馬場横丁



八王子市千人町

「馬場横丁」は、現在の甲州街道（国道20号）西八王子駅東交差点から宗格院までの道のことで、宗格院の北側に八王子千人同心の馬場があったのが由来です。甲州街道に直角に合流する道を横丁と呼び、馬場横丁は一番上（かみ 上流）の横丁です。この辺りの地名は、今でも千人町。千人町というのは、西からの攻めに備える要衝として八王子のまちをつくらせた大久保長安が、旧武田家臣団を中心として創設した八王子千人同心（はじめは八王子五百人同心）の名残です。

## 2 宗格院・石見土手



八王子市千人町 2-14-18

良价山宗格院（りょうかいざん そうかくいん）は曹洞宗のお寺で、400年ほどの歴史があります。その敷地内にある石見土手は、八王子市史跡です。水防のためにつくられた本来の土手ではなく、遊水池である千人同心の馬場とお寺の間を仕切っていたものだと思います。馬場ですから大水のときに水があふれてもそれほど困らない、つまり遊水池として使われていたと思われるから、残っているのは案外規模の小さい石垣のようなものです。

## 3 水無瀬橋付近に残る霞堤



八王子市千人町 2-11 付近

大久保長安はもともと武田信玄に仕えていました。この霞堤は信玄堤の技術を継承したと思われる。本川の治水のための川除（かわよけ）土手ですが、史跡にも指定されていないので、存在もあまり知られていません。霞堤の切れた地点に残っている水路は導水路。霞堤は大水のときにあふれさせることで堤防が決壊することを防ぐのですが、水が引いてきたときには速やかに排水できるようにもなっています。普段は農業用水路としても使われ、付近は遊水池であり田んぼや馬場。一つのものにたくさんの役割をさせるのは、近代治水と一番異なっている点です。

## 4 日吉八王子神社と鮎塚



八王子市日吉町 8-20

日吉八王子神社は、北条氏が滅んだときに八王子城に立てこもっていた山伏の子孫が代々維持してきた神社で、社紋は北条氏の紋、ミツウロコです。小さい神社ですが八王子の総鎮守と言われています。ここには鮎塚があって、浅川で昔はおいしい鮎が捕れたという証拠です。最近では、水質が良くなったこともあり、日野の辺りまで天然鮎が遡上するようになりました。

## 5 南浅川と浅川の合流点



八王子市元本郷町 4-19 付近

八王子は西から東に傾斜しているのも、もしも浅川があふれると甲州街道の方向に水が流れていきます。浅川は渓流河道に近い急流ですから、増水したらあっという間に町中に水がくる恐れがあります。実際、1910年（明治43）と1947年（昭和22）のカスリーン台風の際に、石見土手が切れて甲州街道に水が流れています。南浅川の合流点より少し上流に、城山川という支流が合流していますが、これも第二次世界大戦前後に付け替えられています。勢いのある浅川本流の水を、城山川と南浅川を直角にぶつけることで向こう岸に押しやろうとしたと思われます。

## 6 ポンプ場



八王子市元本郷町 4-19-1

川を直角に曲げたことによって、表流水は西に押しやられましたが、地下水は伏流しています。それで1929年（昭和4）に多摩地域では一番最初の近代水道が八王子につくられました。伏流水を緩速濾過の池で浄化して利用しました。同じときにつくられたポンプ場は、現在でも現役で使われています。※2015年5月（予定）まで外壁改修のため外観はご覧になれません。

## 7 萩原橋そば河川敷の湧水



八王子市元本郷町 1丁目付近

八王子内の浅川に架かる橋で、唯一個人名がつくのが萩原橋です。萩原彦七さんは、八王子初の機械製糸工場を創業した豪商で、1901年（明治34）架橋の経費を地元民250名とともに寄付しました。橋を架けた年に経営が悪化し、諏訪の片倉製糸に会社を買収されます。一時期は、官営富岡製糸場よりも釜数が多かったといわれ、日本一の製糸工場といわれました。八王子は水路も多く湧水も豊富で、水車があちこちにつくられたのは、水の恵みの側面です。地場産業の繊維産業で水車動力が利用されました。

## 8 水天宮と大善寺跡



八王子市大横町 9-3

八王子には水天宮は少なく、大横町の水天宮は貴重な水の神様です。1945年（昭和20）の八王子空襲のときに焼かれなかったため、建物自体は明治時代のもの。大横町には、八王子で一番大きな大善寺というお寺もありましたが、1961年（昭和36）八王子の大谷町という所に引っ越してしまいました。大善寺があったのは自然堤防の上で、少し高台になっていて水がかぶらない場所です。大久保長安は、極楽寺とともに、八王子の治水の要衝に大きな寺を二つつくるというまちづくりを行なっています。

## 9 極楽寺



八王子市大横町 7-1

極楽寺は享保（1716～1735年）の建物で、八王子市街地では一番古いものになります。御朱印15石をいただき、葵の御紋が許されています。極楽寺は自然堤防の上にあつて、一度も水をかぶったことがありません。400年も続く寺なので、八王子にとって重要な人のお墓もたくさんあります。八王子宿をつくるのに貢献したといわれる川島（長田）作左衛門の墓もあります。

## 10 浅川橋付近の石見土手



八王子市大横町 7

石見土手（霞堤）という南浅川の水無瀬橋の辺りばかりが注目されていますが、実は極楽寺の裏手も石見土手と呼ばれていました。現在、田町という地名が残るところは明らかに湧水地で、今も水路がたくさん巡っています。極楽寺には樺や竹がたくさん残っていますが、それらは土手に水防用に植えられたものです。お寺を境にしてその外（川側）は遊水池でしたが、今は家が建ち並んでしまいました。それでも比較的古い時代に建てられた家は、遊水池であることを意識して石垣で家を守ったり工夫しています。

## 11 大久保塚



八王子市元横山町 3-19-13

静教保育園の中に大久保塚があります。今は塚というよりは、碑がわずかに残っているだけです。塚があったといわれ、昔は松の木が立っていたそうです。明治になって御嶽山という碑が建てられ、子どもたちは「上に乗らないように」と教えられたそうです。市立保育園用地内なので見ることはできません。

## 12 田町遊郭跡地



八王子市田町

遊水池のあとにつくられ、1958年（昭和33）の売春防止法施行まで存在した田町遊郭跡地で、東京都内で唯一、戦前の遊郭建築が残っている所です。30年ほど前までは中央に柳の木が植わっていて、両側が道路でした。その沿道には旧遊郭の建物がずらりと残っていましたが、今は3軒ほどに。しかし、これだけの遊郭が栄えたことが、八王子宿の隆盛を物語っています。